

大和田 SSC チームエンブレム

監修 松下C

地域と歴史とチームの融合を表現

サッカーというスポーツにおいて、日本の J リーグはもとより世界の名だたるクラブチームは、その活動地盤である地域に根ざしたチーム創りを行なっています。大阪市西淀川区大和田を本拠地とする『大和田 SSC』も、地域に根ざし、チームの誇りと子供達の夢を育むサッカーチームである事をこのエンブレムに託しています。やがて、全国に名を馳せるサッカーチームとして前進し続け、またここを巣立つ子供達の限りない未来に向けて多くの歴史を刻んで行く願いを込めています。

エンブレムのモチーフ「松」と「城」

大和田の歴史を見ると、平安時代の「源平の合戦」の折、源義経にまつわる判官松（ほうがんまつ）伝承地として記録があります。また戦国時代から安土・桃山時代にかけては、大和田城が構えられ重要な軍事的要塞の地であったことがうかがえます。

この「松」と「城」をエンブレムデザインのモチーフに使用しています。

エンブレムのキー「3」

形の中で、力とバランスが一番取れた形状は「三角形」です。三角形はどんな状態の形であれ、崩れることなく力のバランスを保ちます。チームエンブレムには、随所にこの堅牢さを意味する「3」という数字を取り入れています。

「堅牢さ」とは、試合に勝てる「チームとしての強さ」、人としての「メンタルとフィジカルな強さ」そして何より、チームに関わる多くの大切な「強い絆」です。選手間、監督・コーチ間、父兄間、他チーム・団体間、それら全ての結び付きがチーム運営と子供達に欠かせない重要な要素です。

大和田の地

(参照 <http://www.city.osaka.jp/nishiyodogawa/spot01.html>)

淀川のほとり大阪湾に面したこの地域は、古くは万葉集に歌われ、風光明媚な浜の浦であったことが知られています。大和田住吉神社の境内にこの歌碑があり、大和田小学校の校歌にその一部が引用されています。

判官松伝承地 (ほうがんまつ)

源平の合戦、屋島へ向けて暴風の中を船出した源義経は、波浪のため当地へ押し流されました。そこで、当地の住吉大明神に海上平安を祈願したところ、嵐もやみ無事渡航に成功し、平氏を討つことができたと言われています。その時、記念に植えたという松が、明治時代に落雷で焼矢するまで繁茂していました。現在、その伝承の碑が大野下水処理場正門前に、また判官松之跡が住吉神社内にあります。

大和田城跡

戦国時代、石山本願寺教団が西方面の防衛の要として大和田に出城を構えました。しかし、石山合戦の折り、織田信長の武将に攻められ落城しました。後に、織田信長は、この大和田の地が軍事的要塞として重要であると認識し、家来に命じて城を再築し、毛利水軍に備えました。現在、城跡の碑が、大和田小学校の校庭にあります。

チームエンブレムの形態



城壁

エンブレムの冠部分には、大和田の歴史として城壁をモチーフに取り入れています。堅い守備力を持つチームであることを表わしています。

松ボックリ

まだ若い松ボックリはその松かさを堅く閉じています。熟すと羽の付いた松の種は風に乗って何キロも遠くに飛んでいきます。この松ボックリは、選手である子供達の集合体です。ここに、さまざまな可能性を持った羽のついた多くの子供達（松の種）がいます。



縦横のライン

縦の黄色の太い中心線はチームの中心である監督を、左の黄色い3本線は3人の技術コーチを表わしています。そして、監督・技術コーチと共にチームを運営するお父さんコーチ陣が白い横ラインでバランスさせています。

サッカーボール

黒い3つの五角形の中心に黄色い六角形（チーム）があります。あらゆる意味を込めた「3」安定と力の象徴です。

ネームフラッグ

チーム名の入ったネームフラッグは、サポーターの象徴です。それは、一番のサポーターであるお母さん達であり、その力強い応援がチームを支えています。



赤い松葉

三本の赤い松葉は、松葉相撲の遊びになぞられるように、戦いに対する勝利へのこだわりです。大王松などの三本葉であることが、攻守にバランスが取れ負けない力の象徴です。



カラーイメージ

ユニフォームカラーに赤をポイントにすることで、チームに何処までも伸び行く力を与えています。

BASE 『 紺 色 』	宇宙や海 ⇒、落ち着きと集中	バランス Balance
LINES 『 黄 色 』	光や黄金 ⇒ 希望と栄光	アドバンス Advance
POINT 『 赤 色 』	太陽や炎 ⇒ 勇気と力	エネルギー Energy